

FUJITSU Software

ServerView Infrastructure Manager V2.0

操作手順書 の修正情報

版数：第 4 版

CA92344-1454-04

提供年月：2017 年 2 月

【マニュアル修正情報】

ServerView Infrastructure Manager V2.0 操作手順書

【修正履歴】

修正番号	提供年月日	修正箇所	修正概要	対象バージョン
1	2017年2月	1. 2 画面を更新する	更新ボタンのアイコンを変更	V2.0.0.d
2	2017年1月 2017年2月	2. 5 ノードを登録する	[V2.0.0.c] ネットワーク内ノードを検出してノード登録する場合の説明を追加 ノードを直接登録する手順 ノードタイプに facility を追加 [V2.0.0.d] ボタン名称をの一部を変更	V2.0.0.c V2.0.0.d
3	2016年09月	2. 6. ネットワーク接続を設定する	【手順】内の画像の差し替え	V2.0
4	2017年1月	2. 7. アラームを設定する	「2. 8. SNMP トラップ受信を追加する」の説明追加	V2.0.0.c

修正番号	提供年月日	修正箇所	修正概要	対象バージョン
5	2017年1月 2017年2月	2. 8 ログ収集スケジュールを実行する	[V2.0.0.c]章番号を修正 [V2.0.0.d]【手順】の一部を修正	V2.0.0.c V.2.0.0.d
6	2017年1月 2017年2月	2. 8 ノードを削除する	[V2.0.0.c]章番号を修正 [V2.0.0.d]【手順】の一部を修正	V2.0.0.c V2.0.0.d
7	2017年1月	2. 9 ラックを削除する	章番号を修正	V2.0.0.c
8	2017年1月	2. 10 フロアを削除する	章番号を修正	V2.0.0.c
9	2017年1月	2. 11 データセンターを削除する	章番号を修正	V2.0.0.c
10	2017年1月	3. 5. 保管ログをダウンロードする	説明文の修正	V2.0.0.c
11	2016年09月	4. 2. ネットワーク上の異常箇所・影響箇所を確認する	【手順】内の画像の差し替え	V2.0
12	2017年2月	4. 3. 4 ポリシーを作成する	【手順】の一部を変更	V2.0.0.d
13	2017年2月	4. 3. 5 プロファイルを作成する	【手順】の一部を変更	V2.0.0.d

修正番号	提供年月日	修正箇所	修正概要	対象バージョン
14	2016年10月	4. 5. サーバのファームウェアをアップデートする	【手順】内の一部手順と画像の削除	V2.0
15	2017年2月	4. 6. 1 プロファイルを作成する	【手順】の一部を変更	V2.0.0.d


注) 修正記事は、対応する修正番号のページをご覧ください。修正記事の記載方法は、修正形式により以下のように異なります。

- 記事の修正：修正後の内容を点線の下線付きの青文字で記載しています。
- 記事の追加：追加した内容を青文字で記載しています。
- 記事の削除：削除した内容に~~取り消し線~~が引かれています。なお、「修正概要」だけで、削除内容がわかる場合は、記載を省略しています。
- 図やイメージの削除：削除した図、イメージに「**削除画像**」と記載しています。
- 図やイメージの差し替え：差し替えた図、イメージに「**差し替え画像**」と記載しています。
- 上記の形式での記載が難しいものは、「修正概要」に修正/追加/削除内容を記載していることがあります。

修正番号：1

1. 共通的な操作

1. 2. 画面を更新する

【手順】更新ボタン(更新)をクリックすると、情報を再取得し画面が更新されます。

修正番号 : 2

2. 5. ノードを登録する

2. 5. 1. ネットワーク内ノードを検出してノード登録する

1. グローバルナビゲーションメニューから[登録]を選択し、[ノード登録]画面を表示します。
2. [アクション]ボタンから[手動検出]を選択し、[手動検出]ウィザードを表示します。
3. 設定項目を入力し、[実行]ボタンを押します。
 - IPアドレス検出範囲 : 検索対象とする範囲を IP アドレスで指定
 - アカウント : IPMI 固定
 - アカウント名 : iRMC のアカウント名
 - パスワード : iRMC アカウントのパスワード
 - ポート番号 : IPMI のポート番号 (デフォルト 623)
 - アカウント : 以下から選択
 - iRMC/BMC : サーバを検出する場合に選択します。
 - SNMP : PRIMEQUEST または水冷 RackCDU を検出する場合に選択します。
 - SSH + SNMP : ETERNUS またはネットワークスイッチを検出する場合に選択します。

アカウントごとに必要な項目を設定します。

- iRMC/BMC の場合
 - ユーザー名 : iRMC/BMC のユーザー名
 - パスワード : iRMC/BMC のパスワード
 - ポート番号 : iRMC/BMC のポート番号 (デフォルト 623)
- SNMP の場合
 - バージョン : SNMP のバージョンを選択
 - ポート番号 : SNMP のポート番号 (デフォルト 161)
 - コミュニティ名 : SNMP のコミュニティ名
- SSH + SNMP の場合

SSH

- ユーザー名 : SSH のユーザー名
- パスワード : SSH のパスワード
- ポート番号 : SSH のポート番号 (デフォルト 22)

SNMP

- バージョン : SNMP のバージョンを選択
- ポート番号 : SNMP のポート番号 (デフォルト 161)
- コミュニティ名 : SNMP のコミュニティ名

4. ノードが検出されると、[検出ノードリスト]画面に出力されます。検出には時間がかかりますが、自動更新設定が無効に指定されていると、検出ステータスは自動更新されません。自動更新設定の更新間隔を指定する、または更新ボタンをクリックして画面を更新してください。
5. ステータスが[~~Complete~~ 完了]と表示されたら、[検出ノードリスト]タブを選択します。
6. 登録するノードのチェックボックスを選択します。
7. [検出ノードリスト]画面の[アクション]ボタンから[検出ノード登録]ボタンを選択し、[ノード登録]ウィザードを表示します。
8. [ノード登録]ウィザードに従い、設定項目を入力します。設定項目の説明はヘルプ画

面を参照してください。

ヘルプ画面：

[登録]→[「登録」画面] (ed) 検出ノードリスト→[検出ノード登録]

9. 対象となるノードにOS がインストールされている場合は、対象となるノードを選択します。
10. ノード情報表示画面から[OS]タブを選択します。
11. [OSアクション]-[OS 情報編集]を選択します。
12. OS 情報編集画面の設定内容は以下のとおりです。
 - OS タイプ : OS の種類を選択します
 - OS バージョン : OS の版数を選択します
 - OS IP アドレス : IP のバージョンを設定した後、OS 管理ポートのIP アドレスを入力してください(IPv4/IPv6 形式に対応しています)
 - ドメイン名 : ドメイン名をFQDN で入力します
 - アカウント : 管理用アカウントを入力します
 - パスワード : 管理用アカウントのパスワードを入力します
 - パスワード(確認) : 管理用アカウントのパスワードを入力します
 - OS 接続ポート番号 : OS に接続するためのポート番号を入力します
Windows の場合はWinRM サービスのポート番号(デフォルト5986)、Linux の場合はSSH サービスのポート番号(デフォルト22)を入力してください。入力されない場合はデフォルトポート番号が設定されます。
13. OS アカウント情報の入力を完了後、適用を選択します
以上でノード登録は完了です。ノード登録が完了すると、当該のノードは[ノードリスト]画面に表示されます。

以上でノード登録は完了です。ノード登録が完了すると、当該のノードは[検出ノードリスト]画面から消去されます。

2. 5. 2. ノードを直接登録する

1. グローバルナビゲーションメニューから[登録]を選択し、[ノード登録]画面を表示します。
2. [アクション]ボタンから[登録]を選択し、[ノード手動登録]ウィザードを表示します。
3. [ノード手動登録]ウィザードに従い、設定項目を入力します。設定項目の説明はヘルプ画面を参照してください。

ヘルプ画面：

[登録]→[「登録」画面] (ed) 検出ノードリスト→[登録(ノード)]

4. [ノード手動登録]ウィザードの[1. ノード情報]において、[アカウント]の設定項目の説明は以下の通りです。

<[ノードタイプ]で server を選択した場合>

- [iRMC](#) : [iRMC](#) でノードにアクセスしない場合は、チェックボックスをオフにします(デフォルト: オン)
- ポート番号 : [iRMC](#) のポート番号 (デフォルト 623)
- アカウント名 : iRMC のアカウント名
- パスワード : iRMC アカウントのパスワード

<[ノードタイプ]で switch または storage を選択した場合>

- SSH : SSH でノードにアクセスしない場合は、チェックボックスをオフにします(デフォルト：オン)
- ポート番号 : SSH のポート番号 (デフォルト：22)
- アカウント名 : switch または storage のアカウント名
- パスワード : switch または storage のアカウントのパスワード

- SNMP : SNMP でノードにアクセスしない場合は、チェックボックスをオフにします(デフォルト：オン)
- バージョン : SNMP のバージョン
- ポート番号 : SNMP のポート番号 (デフォルト：161)
- SNMP コミュニティ : switch または storage の SNMP コミュニティ名

<[ノードタイプ]で facility を選択した場合>

- SNMP : SNMP でノードにアクセスしない場合は、チェックボックスをオフにします(デフォルト：オン)
- バージョン : SNMP のバージョン
- ポート番号 : SNMP のポート番号 (デフォルト：161)
- コミュニティ : SNMP コミュニティ名

<[ノードタイプ]で other を選択した場合>

- [iRMC/BMC](#) : [iRMC/BMC](#) でノードにアクセスする場合は、チェックボックスをオンにします(デフォルト：オフ)
- ポート番号 : [iRMC/BMC](#) のポート番号 (デフォルト 623)
- アカウント名 : [iRMC/BMC](#) のアカウント名
- パスワード : [iRMC/BMC](#) アカウントのパスワード

- SSH : SSH でノードにアクセスする場合は、チェックボックスをオンにします(デフォルト：オフ)
- ポート番号 : SSH のポート番号 (デフォルト：22)
- アカウント名 : ノードのアカウント名
- パスワード : ノードのアカウントのパスワード

- SNMP : SNMP でノードにアクセスする場合は、チェックボックスをオンにします(デフォルト：オフ)
- バージョン : SNMP のバージョン
- ポート番号 : SNMP のポート番号 (デフォルト：161)
- コミュニティ : ノードの SNMP コミュニティ名

グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。

なお、ISMに登録されているノード数により、ノードリストが表示されるまで時間がかかる場合があります。

5. 対象となるノードにOS がインストールされている場合は、対象となるノードを選択します。
6. ノード情報表示画面から[OS]タブを選択します。

7. 平側[OSアクション]-[OS情報編集]を選択します。
8. OS情報編集画面の設定内容は以下のとおりです。
 - OSタイプ : OSの種類を選択します
 - OSバージョン : OSの版数を選択します
 - OS IPアドレス : IPのバージョンを設定した後、OS管理ポートのIPアドレスを入力してください(IPv4/IPv6形式に対応しています)
 - ドメイン名 : ドメイン名をFQDNで入力します
 - アカウント : 管理用アカウントを入力します
 - パスワード : 管理用アカウントのパスワードを入力します
 - パスワード(確認) : 管理用アカウントのパスワードを入力します
 - OS接続ポート番号 : OSに接続するためのポート番号を入力します
Windowsの場合はWinRMサービスのポート番号(デフォルト5986)、Linuxの場合はSSHサービスのポート番号(デフォルト22)を入力してください。入力されない場合はデフォルトポート番号が設定されます。
9. OSアカウント情報の入力を完了後、適用を選択します
以上でノード登録は完了です。ノード登録が完了すると、当該のノードは[ノードリスト]画面に表示されます。

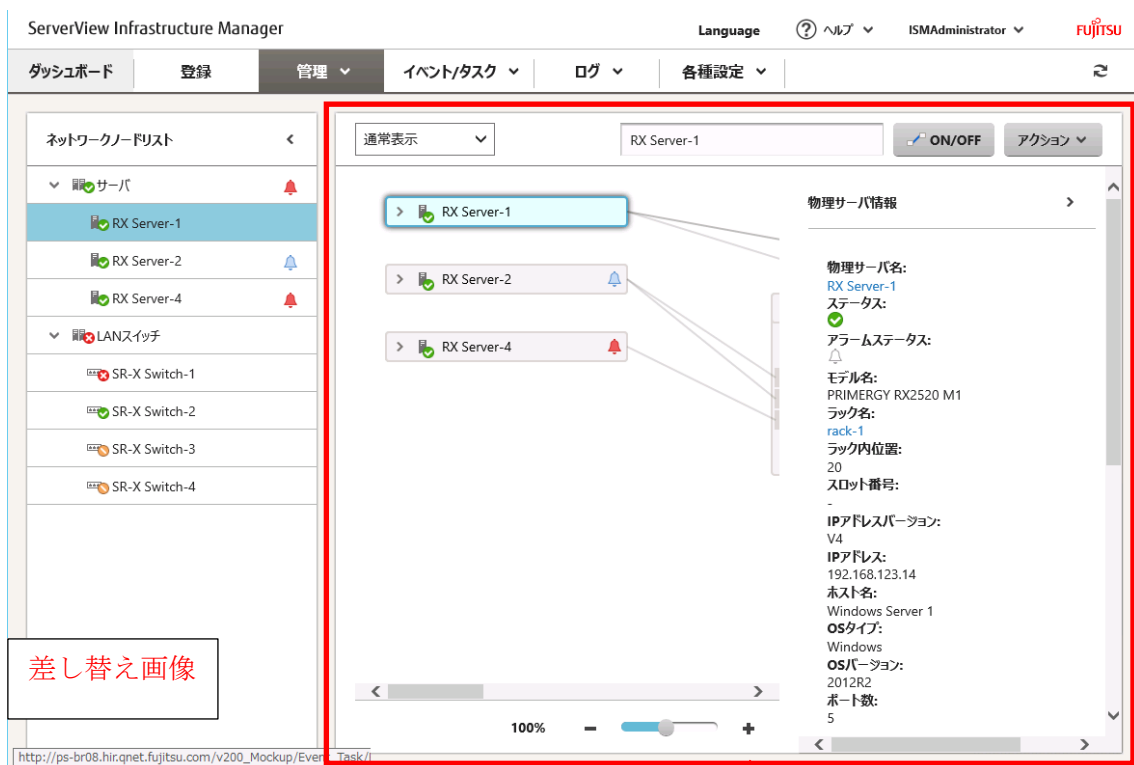
修正番号 : 3

2. 事前設定

2. 6. ネットワーク接続を設定する

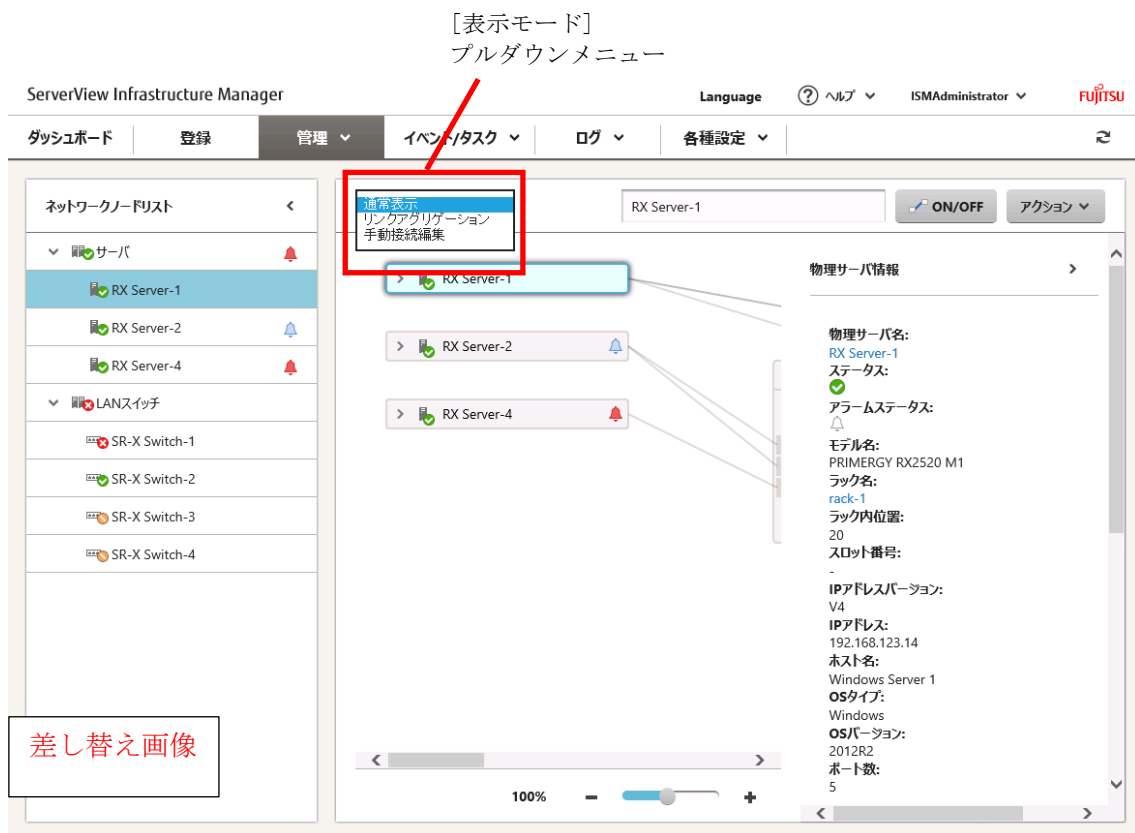
【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択し、[ネットワークマップ表示]画面を表示します。
なお、ISMに登録されているノード数により、ノードリストが表示されるまで時間がかかる場合があります。
2. [アクション]ボタンから[ネットワーク管理情報の更新]を選択し、[はい]を選んで実行します。



[ネットワークマップ表示]画面

3. [表示モード]プルダウンメニューで[手動接続編集]を選択します。



4. 接続するノードのアイコン内の > マークを選択し、ネットワークポート () を表示します。
5. 接続する 2 つのポートを選択し、[追加] ボタンを押してください。設定した結線がグレーになります。
6. 設定する接続の数だけ手順 3. ~5. を繰り返します。
7. [ネットワークマップ表示] 画面で、[アクション] ボタンから [編集内容保存] を選択します。
8. [編集内容保存] 画面で設定した接続の内容を確認し、[保存] ボタンを選択します。
9. [表示モード] で [通常表示] を選択します。

以上でネットワーク接続設定は完了です。

修正番号 : 4

2. 8. SNMP トラップ受信設定をする

2. 8. 1 SNMP 設定を変更する

【説明】

コミュニティ名の設定 (SNMPv1/v2c) を行います。デフォルトのコミュニティ名は” public” に設定されており、必要に応じて変更します。

【手順】

1. ISM-VA のコンソールに administrator ユーザーでログインします。
2. コマンド `ismadm snmp set -name <新コミュニティ名>` を実行します。

2. 8. 2 MIB ファイルを追加する

【説明】

HP サーバ、CISCO スイッチなど富士通以外のベンダーから提供されているハードウェアを監視する場合、MIB ファイルを別途入手し ISM 内にインポートする必要があります。

【手順】

1. MIB ファイルを用意します。このとき、MIB ファイルに依存関係がある場合、対象のファイル全てが必要になります。
2. FTP を使って ISM-VA へ転送します。FTP で `ftp://<ISM-VA の IP アドレス>/Administrator/ftp/mibs` にアクセスし、MIB ファイルを全て格納します。
3. ISM-VA のコンソールに administrator ユーザーでログインします。
4. コマンド `ismadm mib import` を実行します。コマンドを実行すると、FTP に格納した MIB ファイル全てについて一括でインポート処理を行います。

修正番号 : 5

~~2.8.2.9.~~ ログ収集スケジュールを設定する

【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。
なお、ISM に登録されているノード数により、ノードリストが表示されるまで時間がかかる場合があります。
2. ノードリストから、設定対象のノードを選択します。
3. [ログ設定]タブを選択します。
4. [ログ設定]タブ内の[アクション]ボタンから[ログ収集設定編集]を実行します。
5. 設定画面内で必要な設定を入力し、[適用]ボタンをクリックします。
 - [スケジュールタイプ]を選択後、[追加]ボタンをクリックしてログ収集日時を指定してください。
 - [スケジュール実行有効化]にチェックを付けてください。チェックが無い場合、作成したスケジュールは実行されません。
 - ノードがサーバの場合、ノードのOS 情報を正しく設定すると、ログ収集対象として[オペレーティングシステムログ]、[ServerView Suite ログ]が選択可能になります。ただし、サーバの種類によっては、[ハードウェアログ]、[ServerView Suite ログ]は選択可能になりません。この場合、選択もログ収集もできません。

修正番号 : 6

~~2. 8.~~ 2. 10. ノードを削除する

【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。

修正番号 : 7

~~2. 9.~~ 2. 11. ラックを削除する

修正番号 : 8

~~2. 10.~~ 2. 12. フロアを削除する

修正番号 : 9

~~2. 11.~~ 2. 13. データセンターを削除する

修正番号 : 10

3. 5. 保管ログをダウンロードする

【説明】

管理対象ノードから収集したログを時系列に並べて表示します。保管ログをダウンロードすることができます。~~重大度、カテゴリ(ハードウェア、オペレーティングシステム)、管理対象ノード 等の条件を指定することにより、表示するログを絞り込むことができます。~~

修正番号 : 11

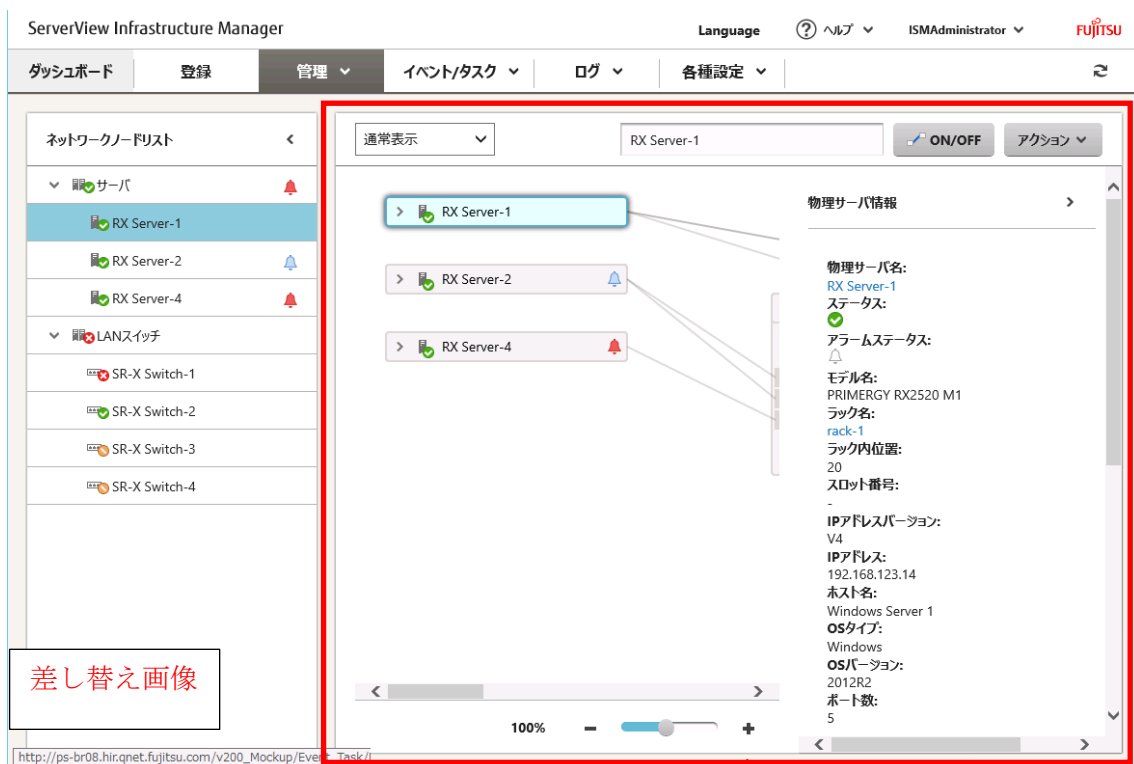
4. 利用シーンごとの操作

4. 2. ネットワーク上の異常箇所・影響箇所を確認する

【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ネットワークマップ]を選択し、[ネットワークマップ]画面を表示します。

なお、ISMに登録されているノード数により、ノードリストが表示されるまで時間がかかる場合があります。



[ネットワークマップ表示]画面

2. 異常が発生しているノードはアイコンが赤色になっています。
3. [アクション]ボタンから[異常の影響範囲表示]を選択します。
4. 異常が発生しているノード間の接続が赤色で表示されます。

以上でネットワーク上の異常箇所・影響箇所の確認は完了です。

修正番号 : 12

- 4. 3. サーバを設定する
- 4. 3. 4. ポリシーを作成する

【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから、[各種設定]–[プロファイル]を選択する。
2. [プロファイル設定]画面内で[\[ポリシー\]タブ](#)–[全てのポリシー]を選択し、[全てのポリシー]画面を表示します。

修正番号 : 13

- 4. 3. 5. プロファイルを作成する

【手順】

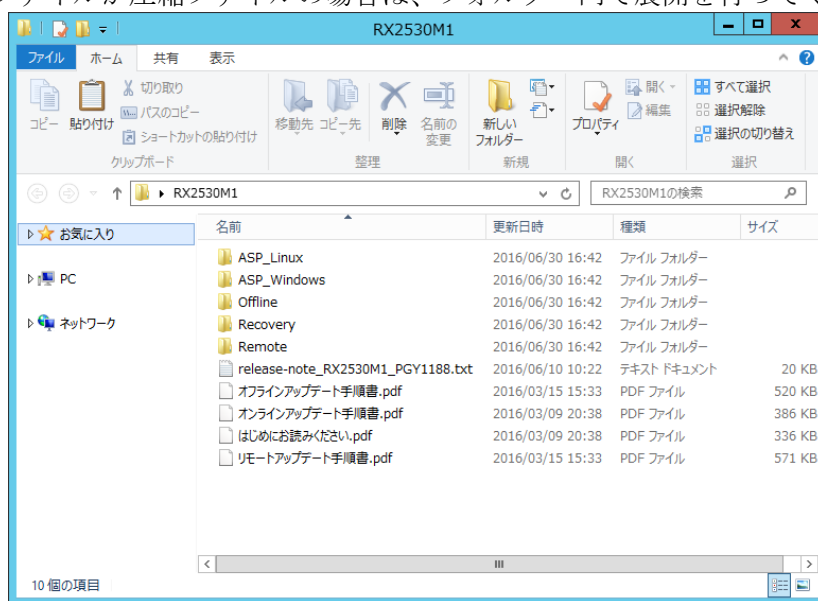
1. ポリシーを作成します。ポリシーの作成手順は、「3.3.4. ポリシーを作成する」を参照してください。なおポリシーはプロファイル作成において必須ではありません。また作成済みのポリシーを適用することも可能です。
2. グローバルナビゲーションメニューから、[各種設定]–[プロファイル]を選択する。
3. [\[プロファイル\]タブ](#)–[全てのプロファイル]を選択し、[全てのプロファイル]画面を表示します。

修正番号 : 14

4. 5 サーバのファームウェアをアップデートする

【手順】

1. アップデートするファームウェアデータがインポートされていない場合は、最初にインポートを行います。インポート済みの場合は手順 7. へ進みます。
2. Web サイトから iRMC/BIOS のファームウェアをダウンロードします。以下のサイトから対象モデルのファームウェアをダウンロードしてください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>
3. 任意のフォルダーにダウンロードしてきたファイルを格納します。ダウンロードしたファイルが圧縮ファイルの場合は、フォルダー内で展開を行ってください。

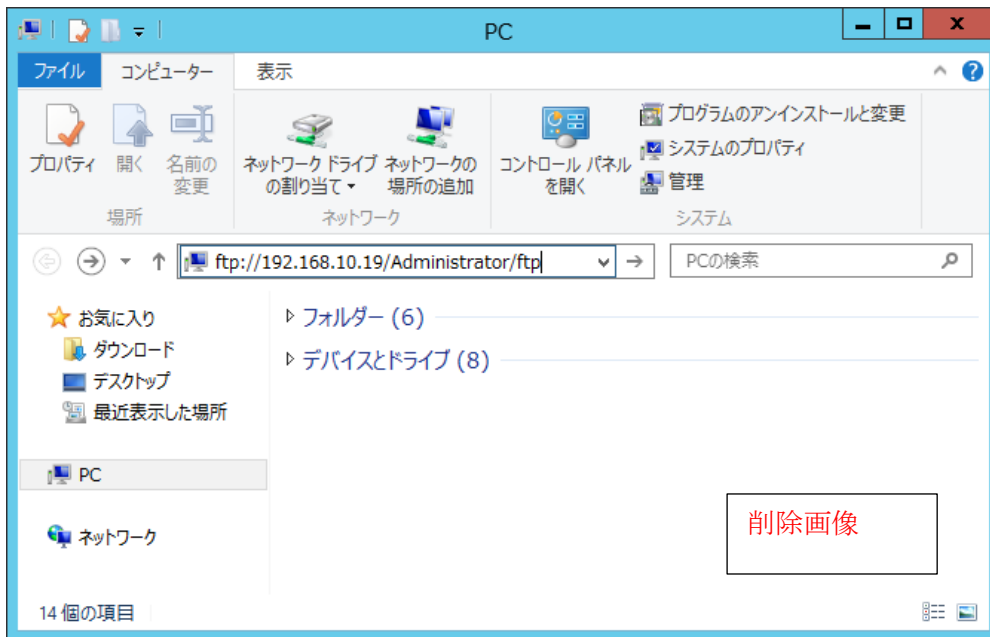


4. FTP を使って ISM-VA へ転送します。必ずフォルダー構造のまま転送するようにしてください。

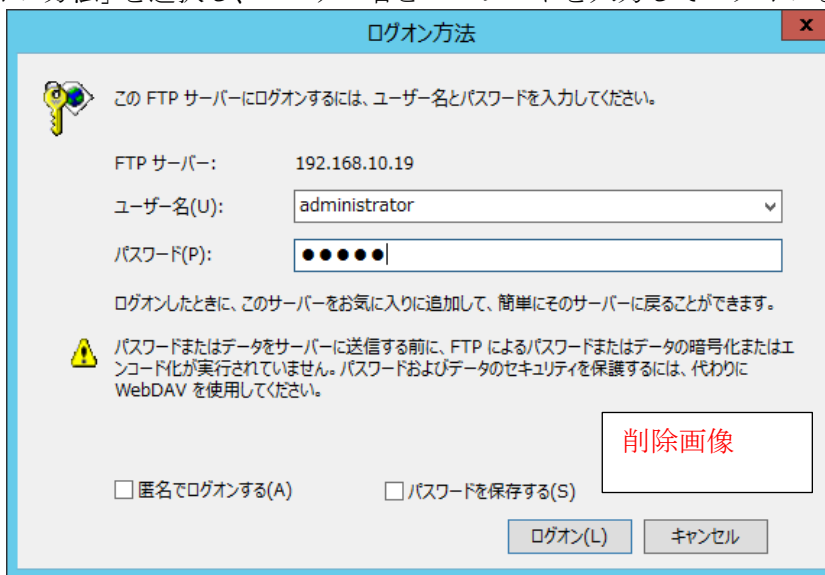
FTP コマンドまたは FTP クライアントソフトウェア (FFFTP、WinSCP など) を使って転送してください。その際、文字コードが UTF-8 で変換されるように設定してください。Windows Explorer を使用すると文字コードが正しく扱われないため、使用しないでください。

FTP クライアントソフトウェアから ISM-VA へログイン後、ルートディレクトリから「<ユーザーグループ名>/ftp」ディレクトリへ移動し、そのディレクトリに転送を行います。

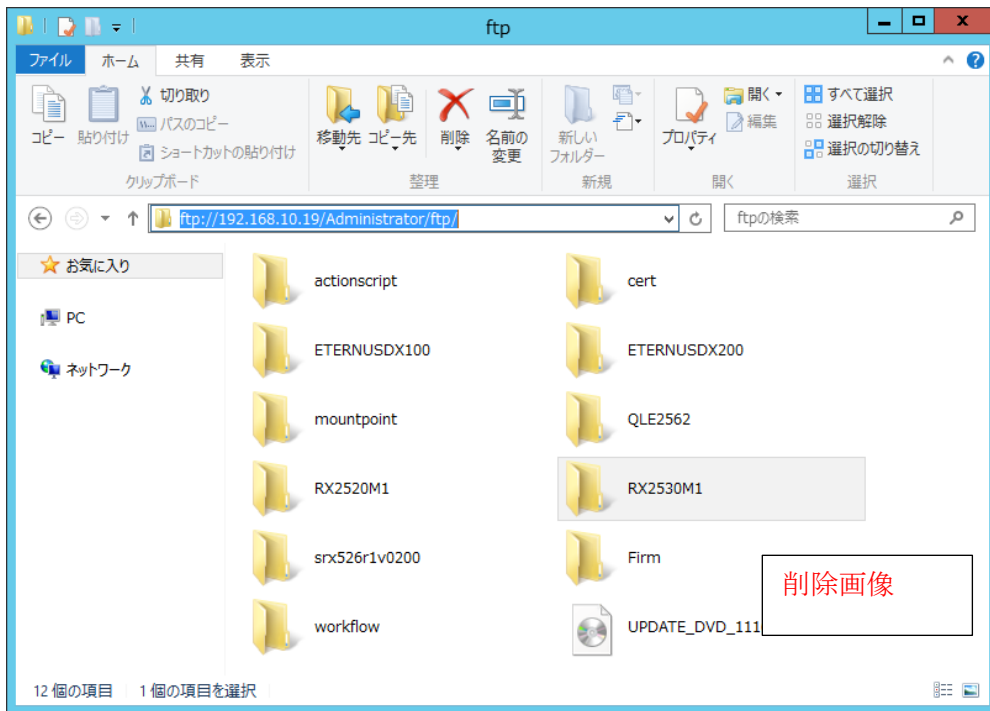
~~エクスプローラーに、ftp://<ISM-VA の IP アドレス>/<ユーザーグループ名>/ftp を入力します。~~



FTP フォルダーエラーが出力される場合は、フォルダー内で右クリックして「ログオン方法」を選択し、ユーザー名とパスワードを入力してログオンをクリックします。



手順2で任意のフォルダーを作成した場合は、階層構造を保ったまま、ドラックしてFTP フォルダーに配置します。



5. ファームウェアをインポートします。

ISM の GUI 画面のグローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択します。[ファームウェア]の[アクション]ボタンから[ファームウェアインポート]を選択します。

画面表示に従い、ファイルの配置場所、種類、モデル、バージョンを入力して適用を選択します。

入力するバージョンは、下記の表に従って入力してください。

種類	モデル	バージョン入力方法
iRMC	RX100 S8, CX2550 M1 など	リリースノートを参照して、iRMC のバージョンと SDR のバージョンを指定してください。
BIOS	RX100 S8, CX2550 M1 など	リリースノートを参照して、BIOS バージョンを指定してください。

インポートの開始後、作業が ISM のタスクとして登録されます。作業の状況は「タスク」画面で確認してください。

グローバルナビゲーションメニューから[イベント/タスク]-[タスク]を選択すると、「タスク」画面にタスクの一覧が表示されます。

6. ファームウェアがインポートされたことを確認します。

グローバルナビゲーションメニューから[各種設定]-[リポジトリ]を選択し、[リポジトリ設定]画面を表示します。画面左側で[ファームウェア]を選択し、右画面で[ファームウェア]タブを選択します。

インポートを行ったファームウェアが[ファームウェアリスト]に表示されることを確認してください。

7. 対象サーバをメンテナンスモードに設定します。

グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。

なお、ISMに登録されているノード数により、ノードリストが表示されるまで時間がかかる場合があります。

ファームウェアアップデート対象ノードを選択し、[アクション]-[メンテナンスモー

- [ド設定]を選択し、メンテナンスモードに設定してください。
8. 対象サーバを選択します。

[カラム表示]で[ファームウェア]を選択します。
ファームウェアアップデートをするノードのチェックボックスを選択します。
(現行バージョンより版数の高い版数がインポートされ、最新バージョン欄にそのファームウェアの版数が表示されている状態でないとチェックボックスの選択ができないようになっていきます。)
[アクション]ボタンから[ファームウェア更新]を選択し、[ファームウェアアップデート]ウィザードを表示します。
 9. ファームウェアアップデートを開始します。

[ファームウェアアップデート]ウィザードに従い、設定項目を入力します。(設定項目の入力は、ヘルプの[管理]→[「ノード」画面]→[ファームウェア更新]と移動し、[ファームウェア更新]ヘルプを参照してください)
ファームウェアアップデートの開始後、作業がISMのタスクとして登録されます。
作業の状況は「タスク」画面で確認してください。
グローバルナビゲーションメニューから[イベント/タスク]-[タスク]を選択すると、「タスク」画面にタスクの一覧が表示されます。
 10. BIOS, PCI カードのオンラインファームアップの場合、対象サーバの再起動を行います。
 11. 対象サーバのメンテナンスモードを解除します。

グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。
ファームウェアアップデート対象サーバを選択し、[アクション]-[メンテナンスモード設定]を選択し、メンテナンスモードを解除してください。
 12. 対象サーバのファームウェアバージョンが上がったことを確認します。

グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。
ファームウェアアップデートを行った機器のノード名をクリックし、[プロパティ]を選択します。
[アクション]ボタンから[ノード情報取得]を選択し、ノード情報取得を行います。
グローバルナビゲーションメニューから[管理]-[ノード]を選択し、[ノードリスト]画面を表示します。
[ノードリスト]画面内の[カラム表示]で[ファームウェア]を選択することでアップデート後のバージョンが表示されます。
- 以上でサーバのファームウェアアップデートは完了です。

修正番号 : 15

- 4. 6. スイッチ、ストレージを設定する
- 4. 6. 1. プロファイルを作成する

【手順】

1. グローバルナビゲーションメニューから、[各種設定]–[プロファイル]を選択する。
2. [プロファイル]タブ–[全てのプロファイル]を選択し、[全てのプロファイル]画面を表示します。